

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

30th Anniversary

30th

ひとが咲くまち。ひたちなか

ひたちなか市教育委員会指導課

目 次

1	全国学力・学習状況調査平均正答率（茨城県・全国）	1
2	児童生徒質問紙調査	3～9
3	学校質問紙調査	10～13
4	小学校 国語	14～16
5	小学校 算数	17～19
6	中学校 国語	20～22
7	中学校 数学	23～25

令和6年度全国学力・学習状況調査<国・数>

1 平均正答率（％）

学校種	小 学 校			中 学 校		
教科	国語	算数		国語	数学	
茨城県	67.0	62.0		59.0	51.0	
全国	67.7	63.4		58.1	52.5	

○ 本市全体の平均正答率は、小学校算数、中学校国語で全国をやや上回っている。小学校国語は全国とほぼ同じである。（中学校数学は全国をやや下回っている。）

2 小学校国語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
2－ (1)	【書くこと】集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる	82.0%	80.8%	80.3%
2－ (2)	【情報の扱い方】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる	85.2%	86.5%	86.9%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
2三ア	【言葉の特徴や使い方】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる	39.6%	39.6%	43.4%

3 小学校算数

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80％以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
1 (2)	【数と計算】数量の関係を、□を用いた式に表すことができる	86.8%	87.0%	88.5%
5 (1)	【データの活用】円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる	81.6%	76.7%	80.8%

(2) 課題の見られた設問（正答率50％以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
3 (3)	【図形】球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる	34.7%	35.9%	36.5%
4 (3)	【変化と関係】道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる	30.8%	29.9%	31.0%
5 (3)	【データの活用】折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる	44.5%	42.8%	44.0%

令和6年度全国学力・学習状況調査<国・数>

4 中学校国語

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
3ー	【書くこと】目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる	85.5%	82.2%	81.4%
4三	【我が国の言語文化に関する事項】行書の特徴を理解している	82.4%	81.4%	75.6%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
1三	【情報の扱い方】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している	43.9%	43.5%	44.0%
1四	【話す・聞くこと】話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる	47.8%	48.6%	44.7%
2ー	【読むこと】文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる	36.5%	36.4%	36.3%
2四	【読むこと】目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる	44.3%	43.0%	42.6%
4二	【読むこと】短歌の内容について、描写を基に捉えることができる	47.5%	47.9%	48.3%

5 中学校数学

○ 本市においても、以下の設問に関して本県と同様の傾向が見られた。

(1) 成果の見られた設問（正答率80%以上）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
6 (1)	【数と式】問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる	90.3%	88.8%	90.2%
8 (1)	【関数】二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる	85.0%	84.0%	83.4%

(2) 課題の見られた設問（正答率50%以下）

問題番号	出題の趣旨	平均正答率		
		本市	本県	全国
1	【数と式】連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる	30.5%	30.7%	34.8%
2	【数と式】等式を目的に応じて変形することができる	49.0%	48.7%	52.5%
6 (2)	【数と式】目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できる	37.3%	37.1%	35.9%
6 (3)	【数と式】統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる	44.4%	42.2%	41.8%
7 (2)	【データの活用】データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる	26.6%	27.1%	25.9%
8 (2)	【関数】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	18.2%	18.5%	17.1%
9 (1)	【図形】筋道を立てて考え、証明することができる	21.8%	21.5%	25.8%
9 (2)	【図形】角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	23.0%	23.9%	26.7%

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

1 「生活面に関わる内容」

(1) <基本的な生活習慣、幸福感等>

「朝食を毎日食べているか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか。」という質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国・県より上回っている。「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか。」については、全国より大きく上回っている。

「学校に行くのは楽しいと思うか。」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。」という質問に対し、小学校・中学校ともに、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県と比較して上回っている。学校が楽しいと感じている児童生徒が多い。

昨年度より「幸せな気持ちになることはどれくらいあるか。」という設問が加わった。肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県と比較して上回っている。昨年度と比較すると、小学校はほぼ同じであったが、中学校は大きく上回った。

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っている。また、経年変化を見ると、小学校、中学校ともに、毎年向上している。シビックプライドの醸成が図られつつある。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
朝食を毎日食べている。(小・中1)	R6	94.7	93.7	93.7	93.9	91.7	91.2
	R5	95.8	94.1	93.9	92.7	91.9	91.2
	R4	96.5	94.5	94.4	95.2	92.7	91.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(小・中2)	R6	86.6	84.0	82.9	84.8	81.7	80.7
	R5	86.1	81.7	81.0	80.9	78.8	78.0
	R4	84.6	82.0	81.5	85.1	80.3	79.9
毎日、同じくらいの時刻に起きている。(小・中3)	R6	93.9	92.3	91.6	94.7	92.9	92.5
	R5	93.1	91.1	90.5	91.6	92.0	91.3
	R4	92.2	91.1	90.4	95.1	92.8	92.2
学校に行くのは楽しいと思う。(小・中16)	R6	89.5	86.6	84.8	86.2	83.9	83.8
	R5	89.9	86.5	85.3	82.8	81.5	81.8
	R4	89.2	87.2	85.4	82.1	82.3	82.9
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(小・中17)	R6	83.0	77.7	75.8	80.7	76.1	76.2
	R5	85.4	77.9	76.5	79.6	77.2	77.6
	R4	81.2	74.6	73.5	81.2	77.1	76.9
友達関係に満足していますか(小・中18){R4は友達と協力するのは楽しいと思う。}	R6	93.7	92.1	91.1	92.7	90.6	90.1
	R5	93.1	91.1	90.3	89.2	88.9	88.7
	R4	94.6	94.2	94.0	93.8	93.6	93.7
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。(小・中19)	R6	92.7	91.4	91.7	91.1	89.4	89.8
	R5	92.9	90.8	91	85.9	86.3	86.8
地域や社会をよくするために何かしてみたい。{R4は、何をすべきかを考える。}(小・中25)	R6	87.3	85.4	83.5	80.8	77.7	76.1
	R5	85.6	79.1	76.8	72.0	65.4	63.9
	R4	58.2	53.8	51.3	45.5	43.8	40.7

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(2) <自尊感情、将来に関する意識>

1 自分自身に関する質問について

「自分には、よいところがあるか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」という質問に対して、「当てはまる、どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、県や国の平均を上回っている。自己肯定感が高い児童生徒が多いといえる。

2 いじめに関する質問について

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童は83.8%、生徒は82.5%と、県や国の平均を大きく上回っている。いじめはゆるさないという気持ちが育っている。

3 援助希求行動について

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問が昨年度より新設された。「当てはまる、どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、県や国の平均を上回っているが、昨年度と比較すると、小学校で下回っている。今後注視していく必要がある。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
自分には、よいところがある。(小・中9)	R6	85.4	82.7	84.1	85.0	82.7	83.3
	R5	85.8	82.1	83.5	79.3	78.5	80.0
	R4	82.2	77.8	79.3	78.1	76.5	78.5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(小・中10)	R6	92.5	89.1	89.9	92.5	90.8	90.4
	R5	89.9	88.6	89.8	87.8	86.9	87.3
	R4	88.2	86.5	87.1	86.3	86.5	86.6
将来の夢や目標を持っている。(小・中11)	R6	85.8	84.7	82.4	66.3	68.0	66.3
	R5	84.9	83.3	81.5	69.5	68.0	66.3
	R4	82.7	80.8	79.8	69.6	68.6	67.3
人が困っているときは、進んで助けている。(小・中12)	R6	94.9	93.1	92.7	91.7	90.3	90.1
	R5	93.0	91.8	91.6	89.3	88.2	88.1
	R4	91.2	89.8	88.9	89.3	88.3	88.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(小・中13)	R6	98.0	97.1	96.7	96.7	96.1	95.7
	R5	97.6	97.0	96.9	96.0	95.5	95.5
	R4	97.0	97.1	96.8	97.2	96.6	96.4
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。(小・中14)	R6	69.1	66.8	67.1	70.5	65.1	67.5
	R5	71.1	66.8	68.5	69.1	64.0	66.4
人の役に立つ人間になりたい。(小・中15)	R6	96.7	96.0	95.9	96.5	95.4	95.2
	R5	96.3	95.6	95.9	95.0	94.6	94.6
	R4	96.7	94.7	95.1	95.6	95.1	95.0

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

2 「学習面に関わる内容」

(1) <学習に対する関心・意欲・態度>

「国語や算数の勉強が好きだ。」という質問に対し、肯定的に回答した小学校の児童の割合は、全国・県と比較し大きく上回っている。しかし、中学校の生徒では、「数学の勉強が好きだと」肯定的に回答した生徒の割合は、県を上回っているが、全国をやや下回っている。中学の数学で、好きだと感じられるような取組が求められる。

「国語や算数・数学の授業内容がよくわかる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国・県と比較し大きく上回っている。本市の特色ある取組の一つである、魅力ある学校づくりを推進してきたことも、「授業がよく分かる」の好結果の一因であると考えられる。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
国語の勉強が好きだ。(小・中42)	R6	71.3	64.0	62.0	65.5	66.1	64.3
	R5	70.6	63.7	61.5	66.7	64.3	61.4
	R4	64.8	60.3	59.2	64.9	64.8	61.9
国語の授業の内容がよく分かる。(小・中44)	R6	92.2	87.6	86.3	89.9	85.4	82.7
	R5	90.9	86.8	85.7	85.2	83.5	80.0
	R4	89.3	85.0	84.0	84.9	83.5	81.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中45)	R6	95.6	94.2	93.2	93.2	91.4	90.6
	R5	94.9	93.1	92.8	89.8	89.0	88.7
	R4	93.0	91.9	91.8	90.0	90.3	89.7
算数・数学の勉強が好きだ。(小・中50)	R6	65.0	60.9	61.0	56.8	55.0	57.2
	R5	66.4	61.1	61.4	56.6	56.4	56.7
	R4	64.2	60.7	62.5	54.3	55.7	58.1
算数・数学の勉強は大切だと思う。(小・中54)	R4	95.0	93.8	94.2	87.7	87.6	86.6
	R3	95.3	93.5	93.8	85.8	85.4	84.1
	R1	93.9	93.9	93.7	86.1	85.6	84.2
算数・数学の授業の内容がよく分かる。(小・中52)	R6	88.3	83.0	82.1	80.8	74.7	75.7
	R5	87.5	81.6	81.2	79.7	73.9	73.3
	R4	86.5	81.2	81.2	76.4	74.5	76.2
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。(小・中53)	R6	95.2	94.6	94.1	82.0	79.9	78.5
	R5	87.5	81.6	81.2	80.1	80.4	75.8
	R4	94.5	92.8	93.3	79.1	78.3	76.5
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。(小・中54) R5は設問なし	R6	84.8	79.6	77.9	58.1	57.4	57.2
	R5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	R4	74.6	70.1	69.3	52.5	48.7	47.3
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。(小・中55) R5は設問なし	R6	88.0	83.7	83.3	80.5	78.3	78.1
	R5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	R4	83.6	79.9	80.4	77.9	75.5	75.2

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(2) 学び方(主体的・対話的で深い学び)に関する内容

これまでに受けた授業に関する質問について、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」「課題解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたか。」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったか。」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国・県と比較し大きく上回っているかまたは上回っている。主体的な学びや、アプトプットできる授業デザインがされていると考えられる。

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」、という質問に対しても、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国・県と比較し大きく上回っており、対話的で深い学びが実現されていると考えられる。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
昨年までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか。(小・中29)	R6	70.8	65.8	67.6	66.9	63.6	64.8
	R5	66.3	61.8	63.7	66.1	60.5	62.1
	R4	68.7	62.9	65.4	63.7	62.8	63.3
昨年までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(小・中30)	R6	86.8	83.1	81.9	83.7	80.9	80.3
	R5	86.1	80.6	78.8	84.2	81.4	79.2
	R4	83.1	78.5	77.3	85.9	81.4	79.2
昨年までの授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。(小・中31)	R6	85.1	81.5	79.6	81.3	77.1	75.4
	R5	82.9	76.7	74.4	77.3	72.6	69.1
	R4	74.7	68.4	68.4	75.8	69.8	67.2
昨年までの授業で、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。(小・中32)	R6	89.8	85.8	84.3	82.6	81.4	80.9
	R5	88.7	84.1	82.9	80.0	75.5	74.9
	R4	86.0	80.5	79.7	78.8	76.0	75.3
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。(小・中33)	R6	91.6	87.1	86.3	90.3	86.9	86.1
	R5	84.7	80.7	81.8	81.4	78.6	79.7
	R4	82.6	79.7	80.1	81.2	78.5	78.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか。(小・中34)	R6	87.8	82.8	80.8	81.2	78.2	77.9
	R5	85.7	78.7	77.4	75.9	71.6	69.2
	R4	83.0	79.2	78.2	79.5	76.6	74.7

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(3) 学級活動、総合的な学習の時間、道徳の授業に関する内容

1 学級活動について

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県よりも大きく上回っている。また、昨年度の本市の結果と比較しても大きく上回っている。

2 総合的な学習の時間について

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国・県よりも大きく上回っている。

3 道徳の授業について

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国、県よりも上回っている。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。(小・中39)	R6	91.5	86.3	84.2	90.4	88.3	86.3
	R5	84.2	79.3	77.2	84.2	81.0	77.9
	R4	80.3	75.0	73.5	84.0	81.4	76.8
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(小・中40)	R6	88.8	83.6	82.5	85.8	81.8	80.6
	R5	82.6	77.8	75.7	78.8	73.6	71.6
	R4	78.5	74.6	73.8	78.4	74.9	71.7
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(小・中38)	R6	86.0	82.2	81.3	88.6	83.0	82.2
	R5	83.2	76.1	74.8	82.5	75.7	72.6
	R4	84.9	73.7	72.7	79.4	75.7	72.1
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(小・中41)	R6	92.0	89.1	88.2	93.5	92.4	91.7
	R5	89.3	84.9	83.6	89.9	86.8	86.3
	R4	86.8	81.2	80.0	89.1	86.9	85.5

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(4) ICTを使用した学習について

1 ICTの使用頻度について

「今までの授業で、コンピュータなどのICTを週3回以上使用した」という質問に対して、当てはまると回答した小学校の児童の割合は全国と比較してやや上回っている。中学校の生徒は全国より20ポイント以上、上回っている。

2 ICTの活用について

「今までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使用すること」に関する質問が今年度新設された。

「楽しみながら学習をすすめることができる。」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。」において、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国、県を大きく上回った。

「わからないことがあった時に、すぐ調べることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。」「友達と協力しながら学習をすすめることができる」において、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国、県を上回った。

児童生徒は、ICT機器を使用することで、高い学習効果を感じている。

昨年度までの授業でコンピュータなどのICTを週3回以上使用した。(小・中27)	R6	60.2	59.9	59.5	85.2	77.9	64.4
	R5	64.0	64.0	62.4	83.3	78.4	61.1
	R4	60.7	58.9	58.2	63.3	66.7	50.9

※ 単位は%「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

昨年度までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使用することで、(R6新設)

分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。(小・中28-2)	R6	94.6	92.3	92.1	96.1	95.3	93.9
楽しみながら学習をすすめることができる。(小・中28-3)	R6	89.4	86.0	86.0	87.9	84.3	82.4
画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。(小・中28-4)	R6	93.7	90.5	89.8	92.0	89.9	89.0
自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。(小・中28-5)	R6	86.0	80.1	79.2	83.9	80.1	77.7
友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。(小・中28-6)	R6	92.6	87.1	86.1	91.6	89.2	86.2
友達と協力しながら学習をすすめることができる。(小・中28-7)	R6	92.5	88.6	87.1	91.6	88.8	85.2

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<児童生徒質問紙>

(5) 家庭学習について ※ 塾での学習や家庭教師との学習時間を含む。

1 休日に1日当たりどのくらいの時間、勉強をするかについて

「学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている、ネットを活用して学ぶ時間含む）」という質問では、小学校の児童、中学校の生徒とも1時間以上、2時間より少ないと回答した割合が一番高かった。クロス集計で教科の平均正答率が一番高かったのは、小学校では「3時間以上」、中学校では「2時間以上、3時間より少ない」と回答する児童生徒であった。

2 休日に1日当たりどのくらいの時間、勉強をするかについて

「休日1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている、ネットを活用して学ぶ時間含む）」という質問について、本市では「1時間以上、2時間より少ない」と回答する児童生徒の割合が一番高かった。クロス集計で平均正答率が一番高かったのは、小学校、中学校とも「4時間以上」と回答する児童生徒であった。学習時間が多い方が、平均正答率が高い傾向にある。

質問項目()は質問番号	学校の授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている、ネットを活用して学ぶ時間含む）(小・中21)							
	回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
本市			本県	全国	本市	本県	全国	
	3時間以上	R6	10.2	9.1	11.0	6.9	7.2	9.2
	2時間以上、3時間より少ない	R6	15.5	13.7	12.5	27.0	22.4	22.5
	1時間以上、2時間より少ない	R6	36.1	35.6	31.1	35.2	37.1	32.6
	30分以上、1時間より少ない	R6	28.2	28.3	27.0	19.6	20.2	18.4
	全くしない	R6	1.8	2.8	5.3	2.8	4.2	6.6
質問項目()は質問番号	休日1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている、ネットを活用して学ぶ時間含む）(小・中22)							
	回答	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
本市			本県	全国	本市	本県	全国	
	4時間以上	R6	5.7	6.1	7.3	5.0	5.5	5.7
	3時間以上、4時間より少ない	R6	5.2	5.5	4.3	10.0	11.1	9.8
	2時間以上、3時間より少ない	R6	14.7	13.4	9.9	26.3	23.5	20.7
	1時間以上、2時間より少ない	R6	35.6	33.6	27.1	30.9	30.4	26.8
	1時間より少ない	R6	33.3	33.3	36.2	20.7	20.9	23.1
	全くしない	R6	5.6	7.9	15.1	6.9	8.1	13.1

※ 単位は%

令和6年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

1 ICTを活用した学習状況

「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレット等を週3回以上使用した。」と回答する割合が、県や全国の平均を大きく上回った。個に応じたICT機器の活用がされている。

「タブレット端末をどの程度家庭で利用できるようにしていたか。」という質問に対して、「毎日持ち帰って、毎日利用している」「毎日持ち帰って時々利用している」と回答した割合が全国、県と比較して下回った。タブレット端末の持ち帰りについて検討する必要がある。

「PC・タブレット端末を、不登校児童に対する学習活動等の支援に週3回以上使用した。」という回答の割合が全国、県を大きく上回った。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
前年度に、自分で調べる場面では、児童一人一人に配備されたICT機器を週3回以上使用した。(小57・中61)	R6	77.7	84.0	76.6	75.0	83.8	70.4
	R5	83.3	77.0	70.0	100.0	85.8	64.6
	R4	72.2	69.2	61.9	62.5	72.9	56.2
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器を週3回以上使用した。(小58・中62)	R6	83.4	62.4	55.1	50.0	68.5	51.9
	R5	44.4	52.2	45.8	62.5	60.1	44.2
	R4	44.5	46.3	39.9	50.0	59.4	41.7
教職員と児童生徒がやりとりをする場面に、ICT機器を週3回以上使用した。(小59・中63)	R6	83.3	66.1	59.7	62.5	72.8	57.4
	R5	33.4	56.9	53.1	62.5	62.6	48.7
	R4	55.6	50.6	45.4	50.0	58.5	44.1
児童生徒同士がやりとりをする場面で、ICT機器を週3回以上使用した。(小60・中64)	R6	55.6	54.1	45.0	75.0	60.4	41.1
	R5	33.4	43.1	40.0	62.5	49.8	33.7
	R4	38.9	35.1	31.3	37.5	44.5	27.8
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレット等を週3回以上使用した。(小61・中65)	R6	72.2	60.6	52.8	62.5	54.1	42.2
	R5	33.3	52.3	45.0	50.0	51.1	35.7
	R4	22.2	26.4	21.1	25.0	27.5	15.6
タブレット端末をどの程度家庭で利用できるようにしていたか。「毎日持ち帰って、毎日利用している・毎日持ち帰って時々利用している」と回答した割合(小64・中68)	R6	5.6	46.5	36.2	37.5	69.8	45.5
	R5	0.0	42.7	32.5	37.5	64.4	40.9
	R4	5.6	31.0	27.4	0.0	43.3	31.6
PC・タブレット端末を、不登校児童に対する学習活動等の支援に週3回以上使用した。(小65-1・中69-1)	R6	38.9	31.3	26.9	62.5	55.4	38.5
	R5	16.7	31.7	28.7	62.5	54.1	38.1
	R4	22.3	28.0	22.9	37.5	37.5	24.7

令和6年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

2 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況

「前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行う。」「学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行う」という質問に対し、「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合は、全国、県より大きく上回った。また、昨年度の本市と比較しても大きく上回った。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的にとりくんでいるか(小・中20)	R6	100.0	99.8	99.3	100.0	99.2	98.4
	R5						
	R4						
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか。(小・中16)	R6	100.0	97.8	98.6	100.0	98.3	94.8
	R5	94.4	98.1	98.5	100.0	97.8	94.7
	R4	94.4	97.1	97.7	87.5	94.8	92.7
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて月に数回以上話し合うことを行ったか。(小・中9)※対応したか(R4)	R6	94.4	85.6	78.9	87.5	74.5	64.7
	R5	61.1	80.5	76.5	37.5	73.8	61.4
	R4	83.3	92.8	90.8	62.5	85.6	81.4
前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、月に数回以上ともに問題解決に当たったか。(小・中10)	R6	100.0	94.5	87.5	87.5	87.3	77.3
	R5	77.8	89.4	86.7	62.5	87.1	75.3
	R4	94.5	96.0	94.8	87.5	92.5	87.4
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。(小・中13)	R6	100.0	99.8	97.0	100.0	99.5	96.5
	R5	94.5	98.9	96.2	100.0	98.7	95.2
	R4	100.0	97.6	94.2	87.5	97.8	93.3
指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている(小・中14)	R6	100.0	98.6	97.3	100.0	93.6	91.8
	R5	94.4	98.2	95.5	87.5	92.7	88.5
	R4	100.0	93.2	92.3	75.0	86.9	82.3

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

「児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」という質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小、中学校とも県や全国の平均を下回っている。自ら課題を見つけ、よりよい解決方法を考え、答えを探り、見いだしていく学びのスタイル(探究的な学び)を推進することが大切であることを示唆している。また、中学校では、「授業において自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。」という質問に対する、肯定的に回答した学校の割合も、県や全国を下回っている。意見や感想を交えて伝える、友達の発言につなげて話す、といった考えを広げ、深めるアウトプットを重視した学習活動を推進していく必要がある。

「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。」という質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小、中学校とも県や全国の平均を大きく上回った。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。(小・中25)	R6	77.7	92.0	88.2	75.0	91.9	88.4
	R5	83.3	88.1	88.9	100.0	93.6	88.0
	R4	83.4	87.7	87.2	87.5	92.1	87.9
児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行っている。(小・中26)	R6	88.9	83.1	78.3	75.0	86.4	82.7
	R5	66.7	80.4	79.0	87.5	86.7	81.6
	R4	83.3	74.9	75.1	75.0	85.2	80.7
児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。(小・中27)	R6	88.9	89.8	87.2	75.0	94.9	89.7
	R5	94.4	90.2	87.7	100.0	89.7	88.8
	R4	72.3	85.2	83.8	87.5	89.6	87.3
各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。(小・中35)	R6	100.0	92.5	85.7	100.0	85.1	78.6
	R5	77.8	92.2	85.6	100.0	91.8	78.6
	R4	94.5	86.9	83.4	75.0	80.3	76.6

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

令和6年度全国学力・学習状況調査<学校質問紙>

4 学習規律、家庭学習の指導

児童・生徒の割合(%)

「児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。」という質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小、中学校とも県や全国の平均を大きく上回った。

「特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行った。」という質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小、中学校とも県や全国の平均を下回った。特別支援教育に対する、理解や対応に大きな課題がある。

小学校教育と中学校教育の連携に大きな課題がある。

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。(小・中7)	R6	100.0	88.7	85.5	100.0	95.8	93.8
	R5	83.3	91.5	87.6	100.0	97.4	95.1
	R4	88.9	87.6	87.2	100.0	97.4	95.6
児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた。(小71・中75)	R6	100.0	97.8	96.1	100.0	95.3	91.9
	R5	88.9	97.1	95.7	100.0	96.5	90.9
	R4	100.0	97.4	96.5	87.5	96.1	93.6
児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かした。(小73・中77)	R6	94.4	93.5	87.8	87.5	88.5	82.8
	R5	88.9	92.8	90.6	100.0	91.5	84.4
	R4	94.5	90.6	89.7	87.5	93.8	86.9

5 特別支援教育における指導

質問項目()は質問番号	年度	小学校(前期課程)			中学校(後期課程)		
		本市	本県	全国	本市	本県	全国
特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行った。(小67・中71)	R6	88.9	98.0	94.9	87.5	97.4	94.0
	R5	100.0	97.1	94.9	75.0	97.4	94.1
	R4	94.4	96.7	94.3	100.0	97.4	92.8

6 小学校教育と中学校教育の連携

前年度までに、近隣の中学校(小学校)等と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った。(小68・中72)	R6	50.0	72.8	64.0	37.5	73.6	69.0
	R5	27.8	69.2	60.6	50.0	75.2	66.8
	R4	38.9	58.2	52.7	62.5	67.2	61.1

7 家庭や地域との連携等

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった。(小70・中74)	R6	100.0	89.1	88.9	100.0	83.0	84.1
	R5	94.5	81.5	86.1	100.0	82.0	79.3
	R4						

※ 単位は%「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合

小学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は国・県より上回っている。
- 学習指導要領の領域別に見ると、「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」の正答率は、国を大きく上回り、県より上回った。しかしながら「知識及び技能」の(2)「情報の扱い方に関する事項」は国、県よりも下回っている。同じく(3)「我が国の言語文化に関する事項」では、国をやや下回り、県とほぼ同じである。
- 問題形式別で見ると、平均正答率は「選択式」については国を上回り、県をやや上回っている。「記述式」については、国をやや上回り、県をやや下回った。「短答式」の正答率は、県を上回ったものの、国を下回った。

【課題】 図などによって示された語句と語句との関係を理解する。

2-1(2)の問題の趣旨は、「情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」である。本市の正答率は、国・県を下回った。

この問題では、それぞれに関係が深い内容を線で結んだメモが提示され、その内容について適切に説明されたものを選択する設問である。本市では、根拠となる具体的な事例がどのように表されているか適切に読み取ることに課題が見られた。また、無解答率が国・県をやや上回った。

指導のポイント

- 図などによって示された語句と語句の関係を理解するために、次のような学習活動が考えられる。
- ・ 様々な図示の方法に触れることを通して、児童がそれぞれの方法で考えを明確にしたり、思考をまとめたりできることを理解し、使うことができるようにすることが重要である。
- ・ 図示の方法については、一定の観点に基づいて順序立てるために線で結ぶ表し方や、似ている事柄をまとめたり、よい点と問題点を分けたりするために丸で囲む表し方があり、それらの方法を用いることによって考えをより明確にしたり、思考をまとめたりすることが大切である。
- ・ 思考力、判断力、表現力の「書くこと」と関連付け、考えを伝えたり読み取ったりする活動の際に、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別することなどを確認することで、指導の効果を高めるように工夫することが重要である。

関連

解説資料P 19～22、報告書P 34～39

小学校国語

【課題】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書く。

2三(ア)の問題の趣旨は、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」である。本市の正答率は、県とほぼ同じであるが、国を下回った。

この問題は、「きょうぎ」の「ぎ」を「技」と正しく書くことはできたが、「競」を正しく書くことできていないと考えられる。また、無解答率が高いことや、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。

指導のポイント

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書くために、次のような手立てや学習活動が考えられる。
- ・当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが大切である。
- ・第1学年及び第2学年では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくようにすることが大切である。
- ・第3学年及び第4学年は、漢字による熟語などの使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れて、習慣として定着するようにすることが大切である。
- ・第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けるようにすることが重要である。
- ・「競技」「協議」等の同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を正しく捉えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。
- ・同音異議の漢字を用いて短文をつくり、意味の違いについて話し合うことで、それぞれの漢字の意味を確認することも効果的である。
- ・「技」と同じへんやつくりをもつ「投」「枝」という誤答も見られたことから、へんやつくり自体がもつ意味について、漢字辞典を活用して捉えられるようにすることが重要である。
- ・漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためにICTを使った語彙検索だけでなく、国語辞典や漢字辞典を利用して調べる習慣を付けられるようにすることが大切である。

関連

解説資料P22～24、報告書P42～43

小学校国語

【課題】文の中での主語と述語の関係を的確に理解して読解する。

☐一の問題の趣旨は、「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」である。本市の正答率は、国を下回り、県をやや下回った。

この問題は、下に示した文の述語「かがやいています」の主語が「巣は」であるという主語と述語の関係を捉えることが求められている。主語と述語が離れて表されている場合があることに留意し、文の構造を理解することが必要である。

「かがやいています」の主語を「そして」と捉えてしまった原因としては、文の構成を理解していないことが考えられる。また、主語を「まぶしく」と捉えてしまった原因としては、主語と述語の関係に加えて、修飾と被修飾の関係の理解が不足していたことが考えられる。

指導のポイント

○文の中での主語と述語の関係を的確に理解して読解するために、次のような手立てや学習活動が考えられる。

- 日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要である。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々であることや、主語と述語が離れて表されている場合もあることに留意することが必要である。
- 文章の内容を理解したり表現したりする場合には、文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解できるようにすることが大切である。
- 主語を「～は」「～が」などを手掛かりに形式的に判別するのではなく、文の構成を理解した上で、主語と述語の関係を捉えることが必要である。
- 「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」の「推敲」に関する指導事項などと関連させて指導することが効果的である。
- 児童が文章を書いた際に、推敲のポイントを明確にして振り返る時間を十分に確保するようにする。また、推敲した文章を他者に読んでもらうことで、目的に応じた文章になっているかを確認できるようにする。
- 修飾語を用いた文章と用いない文章を比較し、どのような違いがあるかを検討したり、実際に自分で書いてみたりする活動を計画的に取り入れることで、文の構成について理解を深められるようにする。

4 まぶしくかがやいています。
3 巣は、かぞえきれないほどたくさんのお日さままでできているように、きらきら、きらきらと、
1 はらっぱじゅうの、もやが、ひかりの雲にかわり、
2 そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの

関連

解説資料P28～30、報告書P53～55

小学校算数

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国よりやや上回っており、県より上回っている。
- 領域別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「A 数と計算」：全国とほぼ同じである。県より上回っている。
 - 「B 図形」：全国よりやや上回っており、県より上回っている。
 - 「C 変化と関係」：全国とほぼ同じである。県よりやや上回っている。
 - 「D データの活用」：全国より上回っており、県より大きく上回っている。
- 評価の観点別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「知識・技能」：全国よりやや上回っており、県より上回っている。
 - 「思考・判断・表現」：全国よりやや上回っており、県より上回っている。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「選択式」：全国よりやや上回っており、県より上回っている。
 - 「短答式」：全国とほぼ同じである。県より上回っている。
 - 「記述式」：全国とほぼ同じである。県より上回っている。

【課題】直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

③ (3) は、短答式の設問であり、球の直径の長さ
と立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の
求め方を式に表すことができるかどうかをみることが
趣旨である。

本市の平均正答率は、全国・県より下回っている。
本市では、 22×3.14 など、球の直径の長さと円
周率から体積を求めることができると誤って捉えてい
ると考えられる誤答が多く見られた。

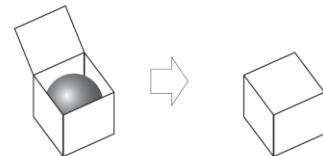
指導のポイント

- 身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要
素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要
である。
- 本設問では、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積
を調べる活動が考えられる。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、
球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径の長さは球の直径の長さ
と等しく、立方体の一辺の長さと等しいことを理解できるようにすることが大切だ
る。
- 立方体の体積は、一辺の長さを測ることによって、(一辺)×(一辺)×(一辺)の式
で求められることを理解できるようにすることも大切である。

③ 直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必
要はありません。

関連

解説資料P25～27、報告書P44、45、P50～53参照

小学校算数

【課題】 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。

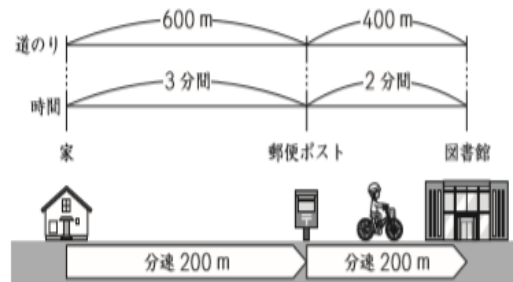
4(4)は、短答式の設問であり、速さの意味について理解しているかどうかをみることが趣旨である。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を^{すびん}通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。

家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。
答えを書きましょう。



本市の平均正答率は、全国よりやや下回っており、県とほぼ同じである。本市では、自転車の速さが、家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mであるとき、家から図書館までは分速400mになると誤って捉えている誤答が多く見られた。

指導のポイント

- 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解し、その数量を求めるとともに、日常生活で出会う様々な問題を解決するために、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を日常生活に生かす問題の提示を行うことが重要である。
- 道のりと時間が比例の関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要である。
- 道のりを比べるときには、その長さだけで比べることができるが、速さを比べるときには、一つの量だけでは比べることができず、時間と道のりという二つの量が必要になることに気付くことができるようにすることが大切である。
- 速さの意味に基づいて、速さを単位時間当たりに移動する長さとして捉え、問題場面に戻って、求めた速さが妥当かどうかを判断できるようにすることが大切である。
- 本設問を用いて、家から図書館までの道のりとかかった時間を用いて、自転車の速さを求める活動が考えられる。その際、家から郵便ポスト、郵便ポストから図書館までの道のりとかかった時間を読み取り、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないことを捉えることができるようにすることが大切である。
- 家から図書館までの道のりとかかった時間から速さを計算して求めることで、分速200mであることを確認できるようにすることも大切である。

関連

解説資料P41～43、報告書P65～67参照

小学校算数

【課題】 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。

5(3)は、記述式の問題であり、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみることが趣旨である。

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のように折れ線グラフに表しました。

こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



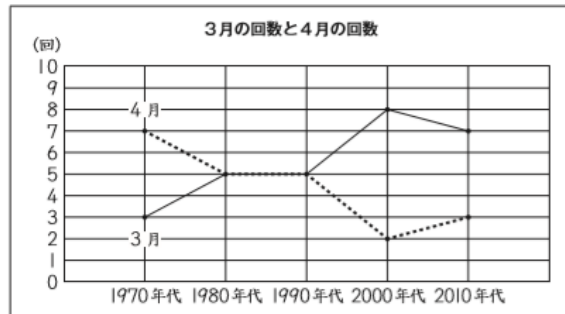
1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。



左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

本市の平均正答率は、全国より上回っており、県より大きく上回っている。しかし、無解答率が全問題の中で最も高くなっており、全国は無解答率と比べると課題が見られる。本市では、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることは記述できているが、2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることは記述できていない誤答が多く見られた。

指導のポイント

- 日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切である。
- 本設問を用いて、3月の回数と4月の回数の折れ線グラフを読み取って捉えたことを伝え合う活動が考えられる。その際、グラフの傾きや重なりなどに着目して、データの特徴や傾向について捉えるとともに、折れ線グラフの数値を読み取り、3月の回数と4月の回数の差を正しく求めることができるようにすることが大切である。
- グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを、他者に分かるように伝えることができるようにすることも大切である。

関連

解説資料P51～53、報告書P78～80、P86（授業アイデア例も含む）参照

中学校国語

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は全国より上回っており、県とは同程度である。
- 学習指導要領の内容別で見ると、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」において、全国・県より上回った。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の設問で全国・県より下回ったものがある。
- 問題形式別に見ると、「選択式」「記述式」において、全国・県を上回った。

【課題】意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。

1三は、話し合いの発言について説明したものとして適切なものを選択する設問であり、意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみるのが趣旨である。本市では、国と県と同様に、「事実」「意見」について理解することができていない。また、「事実」と「意見」、「根拠」と「具体例」等を文章の内容に踏まえて区別することに課題が見られる。

指導のポイント

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解するために、次のような学習活動が考えられる。
 - ・相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。
 - ・話題を決めて互いの考えを伝えるなどして話し合う際に、意見とそれを支える根拠を示して発言することができているかなど、発言を振り返る学習活動を位置付けることが考えられる。
 - ・「事実」と「意見」、それらを支える「根拠」や「具体例」を捉えるために線を引いたり、それぞれの関係を線で結んだりすることで可視化できるようにする。
 - ・「根拠」など、学習で用いる言葉の意味を確認する等、基礎的・基本的なことを確認することで、指導の効果を高めるよう工夫することが重要である。

三 「話し合いの一部」の「議題③」「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という発言について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。

2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。

3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。

4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

関連

解説資料P14、報告書P24～P26（授業アイディア例を含む）

【課題】文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。

②ーは、本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する設問で、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる趣旨である。

本市では、国と県よりも、解答類型3の誤答が多く、読み手が、実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けられるようにする役割をもつことは捉えることができているが、実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割をもつことを捉えていないものと考えられる。

指導のポイント

- 文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈するために、次のような学習活動が考えられる。
 - ・ 図表などを用いた説明的な文章を読む際には、文章の内容を適切に捉え、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認する必要がある。その上で、図表が用いられている意図を考えることが有効である。
 - ・ 文章中の言葉を使って図表が果たしている役割を説明したり、文章の中に図表がある場合とない場合とを比較したりする学習活動が考えられる。
 - ・ 図表を用いた説明的な文章を書く学習の際に、生徒同士で図表の用い方を批評し合うような学習活動も有効である。
 - ・ 文章の中で、図表と対応する部分を指摘させる。文章と図表との関連を、「文章からも図表からも分かること」「図表からしか分からないこと」等の観点で整理し、図表の役割や図表を用いたことによる効果について考える。
 - ・ 図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要である。
 - ・ 図表などが文章中にある場合とない場合とを比較し、図表などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのかを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えるように指導することが有効である。

一 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

関 連

解説資料P20～P21 報告書P37～P39（授業アイデア例を含む）

中学校国語

【課題】 目的に応じて必要な情報に着目して要約する。

②四は本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する設問であり、目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかをみることが趣旨である。

本市においては、国や県と同じように、取り上げる情報が不十分だったり、文章の内容を誤って捉えたりするなど、情報を適切に取り上げることに課題がある。また、必要な情報を正確に捉えて要約することに課題がある。無解答率も県と比較すると高い。

指導のポイント

- 目的に応じて必要な情報に着目して要約するようにするために、次のような学習活動が考えられる。
- ・ 小学校も含めた各学年のC読むこと「精査・解釈」の系統表を確認し「要約」の仕方について生徒がどの程度定着しているかを把握することも大切である。
- ・ 説明的な文章を読む際には、このような特徴を踏まえて読み、その理解が恣意的なものとならないよう、叙述を基にその構造を適切に捉えることが大切である。
- ・ 文章を読んで理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習の際に、生徒一人一人の理解や解釈が適切であるかを検討する場面を設定し、必要に応じて修正したり更新したりすることができるように指導することが重要である。
- ・ 目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える学習活動が考えられる。
- ・ 目的に応じて必要な情報を適切に取り出してまとめられているか、自分の言葉を用いてまとめた部分と文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導することが大切である。
- ・ 要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるように指導することが大切である。
- ・ 同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認することが大切である。

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をとどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

関連

解説資料P23～25、報告書P43～45（授業アイデア例を含む）

中学校数学

本市の傾向と課題

- 全体の平均正答率は、全国・県とほぼ同じである。
- 領域別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「A 数と式」：全国よりやや下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「B 図形」：全国より下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「C 関数」：全国より上回っている。県よりやや上回っている。
 - 「D データの活用」：全国より下回っている。県よりやや上回っている。
- 評価の観点別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「知識・技能」：全国より下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「思考・判断・表現」：全国より上回っている。県とほぼ同じである。
- 問題形式別に見ると、平均正答率は下記の通りである。
 - 「選択式」：全国よりやや下回っている。県とほぼ同じである。
 - 「短答式」：全国よりやや下回っている。県よりやや上回っている。
 - 「記述式」：全国より上回っている。県とほぼ同じである。

【課題】 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める。

5は、短答式の設問であり、簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみるのが趣旨である。

本市の平均正答率は、全国より下回っており、県よりやや下回っている。本市では、2枚の10円硬貨を同時に投げたときの硬貨の表と裏の出方の起こり得るすべての場合を「2枚とも表」、「2枚とも裏」の2通りであると捉えたり、1枚の10円硬貨の出方が「表」、「裏」であることから2通りであると捉えたりして、確率 $1/2$ を求めたと考えられる誤答が多く見られた。

指導のポイント

- 日常生活や社会に関わる事象について、確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面では、同様に確からしいことに着目し、起こり得る場合の数を基にして確率を求めることが大切である。
- 本設問を用いて授業を行う際には、中学2年教科書P188「考えよう」の活動を工夫し、表と裏の出方の全ての場合が「2枚とも表」、「1枚が表で1枚が裏」、「2枚とも裏」の3通りであると考え、2枚とも裏が出る確率を $1/3$ とする誤りを取り上げることが考えられる。そして、2枚とも裏が出る確率が $1/3$ ではなく $1/4$ であることを実感を伴って理解できるようにするために、多数回の試行をすることで求めた確率と比較することが考えられる。
- 学習指導に当たっては、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る場合を落ちや重なりがないように数え上げる活動を取り入れることが重要な点である。小学6年「場合の数」の単元や中学1年「データの分析」の単元での学習内容を確認した上で、本単元で身に付けさせたい資質・能力を明確に捉えて指導に当たることが重要である。

関連

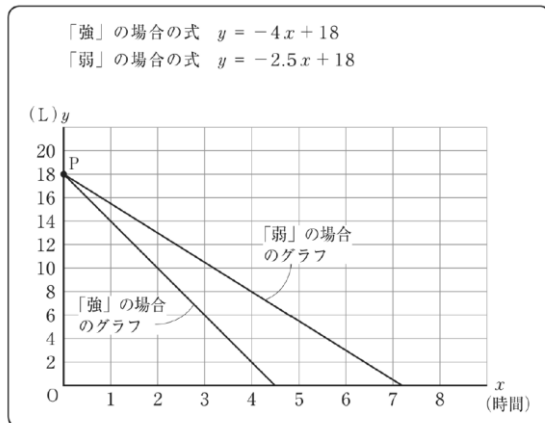
解説資料P20・21、報告書P32～P34参照

中学校数学

【課題】 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。

8 (2) は、記述式の設定であり、事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について数学的に説明することができるかどうかをみるのが趣旨である。

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

本問題は、全問題の中で平均正答率が最も低い問題である。本市の平均正答率は、全国より上回っているが、県よりやや下回っている。方法を説明する際には、「用い方」として、18Lの灯油を使い切ったときの灯油の残量が0Lであることから、式を用いる場合は、二つの式に $y = 0$ を代入してそれらの式から x の値の差を求めること、グラフを用いる場合は、二つのグラフの y 座標が0である点に着目して x の値の差を求めることや2点間の距離を読み取ることを記述する必要がある。本市では、「差」について記述しているが、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の差を求める方法について誤って捉えていると考えられる誤答や、グラフから、灯油を使い切るまでのおよその使用時間について読み取っているが、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を数学的に表現できなかったと考えられる誤答が多く見られた。

指導のポイント

- 様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。
- 本設問を用いて授業を行う際には、使用時間の違いを求めた後にその方法を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面や使用時間の違いを求める過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていく場面を設定することが考えられる。
- 平成30年度B3(3)の問題を活用するなど、グラフを用いて問題解決する場面を設定し、その用い方について数学的に説明できるように指導することも考えられる。

関連

解説資料P 39～46、報告書P 59～65 (学習活動の例も含む) 参照

中学校数学

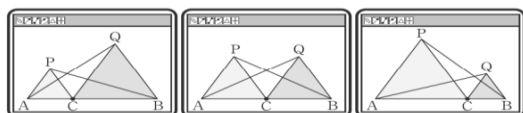
【課題】 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。

9 (1) は、記述式の設定であり、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみるのが趣旨である。

9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。
桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの中点に点Cをとりました。

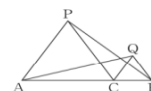


二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。
桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ = PB$

本問題は、全問題の中で無答率が最も高い問題であり、本市の無答率は、全国より上回っており、県よりやや上回っている。また、平均正答率は、全国より下回っており、県とほぼ同じである。本市では、「 $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ 」を示すことで導かれる「 $\angle CAQ = \angle CBP$ 」を証明の根拠として用いたと考えられる誤答や、結論である「 $AQ = PB$ 」を証明の根拠として用いたと考えられる誤答が多く見られた。

指導のポイント

- 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。
- 中学2年教科書P126～127に証明のしくみを整理する活動や証明の根拠が示されている。「①仮定と結論を区別して図に必要な印を書く。②結論を言うために何が言えればよいか証明の方針を立てる。③方針に基づき、根拠を明らかにしながら証明を書いてみる。④書いたものを読み合い、改善して正しい証明を完成させる。」等、スモールステップで説明する活動を授業の中で確保し、丁寧に指導していくことにより、構想を立て、数学的な表現を用いて説明する力を身に付けさせることが重要である。
- 本設問を使って授業を行う際には、 $AQ = PB$ を導くために $\triangle QAC \cong \triangle BPC$ を示せばよいことを明らかにし、 $\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において対応する辺や角の大きさについて分かることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりする場面を設定することが考えられる。その際、 $AQ = PB$ は結論であり、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことを確認することが大切である。また、 $\angle PCQ$ や正三角形の一つの内角の大きさが 60° であることに着目して、 $\angle ACQ = \angle PCB$ を見いだすことができるように指導することも大切である。

関連

解説資料P49～54、報告書P70～75（学習活動の例も含む）参照